

307.429km/h—!!



雨さんを立役者というならば、井上精男選手ももうひとりの立役者である。300 km/hオーバーカー6台のうち、3台は彼のドライビングに頼った



RE雨宮にとっては、とにかく長い道程だった。何度チャレンジしても果たせなかった300km/hオーバー。しかし達成した。国内最高速に髪の毛一本ほどで迫る記録である。もうダメなんじゃないかと言う声もあった。だけどそんなことはもう関係ない。なんとって速いヤツが偉いヤツなんだから。

最後の巨人・RE雨宮大台へ

300 km/h男がまたひとり誕生した。RE雨宮を率いる雨宮勇美氏、雨さんである。当然と言えば当然かも知れない。トライアルの牧原道夫氏、トラスの大川光一氏、RSヤマモトの山本豊史氏が300 km/hオーバーを達成したその後に、他の誰が残されていると言っのか？ 雨さんにとっては遅すぎた記録達成と言っても過言じゃないのだ。
307.429 km/h—。トライアルが昨年12月21日に記録した307.955 km/hにわずか0.5 km/h及ばぬ歴代2位の記録であり、そしてロータリー搭載車初の大台突破でもある。周囲の誰からもロータリーのトップチューナーと認められている雨さんに

とって、300 km/hオーバーは他のどのシヨップ、チューナーよりもまず先に、自分が達成するはずのものだった。実際に雨さんにはその資格があったのだ。本誌の最高速トライアルが開始されてから足かけ4年、その間常に雨さんは立役者となってきた。最高速記録を達成するのに特別な条件があるわけじゃない。その気さえあれば誰でもOKだ。だからと言って誰もが狙えるなんてものでもない。300 km/hに徐々に近づいていった時、た



った1 km/hを伸ばすのに、どれだけの労力と時間が費されたらうか？ 赤い目をして谷田部の周回路に現われ、出来得る限りベストな状態にセッティングしたマシンをドライバーに預ける。しかし期待は裏切られ帰って行く。そんなことを何度も何度も、数えきれないほどやって来た。そして記録の伸びが停

マキズム 85年 4月号